

	子どもの声・姿・意識 (総合的な学習の時間→総合)	活動の展開	教師の関わり(手立て)	単元の評価規準 ○知識・理解 ◎思考・判断・表現 ●主体的に学習に取り組む態度 <キャリア・未来デザイン教育の視点> [探究的な学びの視点]
一 学 期	「1年間を通して扱う材を決め、材について詳しく知る」(5)			
	<div>【昨年度の振り返りでの児童の声】</div> <div>(身に付いた力)</div> <div>・役割を分担して、自分たちで考えて協力して進めることができた。・学校外でも伝えることができた。</div> <div>・話し合いをしてお互いの考えを深められた。・もっと美味しくするためにはどうすればいいか、何度も試していく中で、自分たちなりのゴールを見付けることができた。</div> <div>・桜町フェスティバルでは、桜町小の人に、自分たちがやってきたことを堂々と発表することができて、自信が付いた</div> <div>(身に付けたい力)</div> <div>・自分のためと人のために創作し、話し合う力や技術的なことなど様々な力を身に付け、誰かの役に立ちたい。</div> <div>・誰も挑戦したことのない大きなことにチャレンジしたい。</div>			
	・昨年度の行った材の小松菜などをさらには発展させたい。 ・アフリカ・カメルーンについて全く知らなかった。 ・日本の生活がどれだけ恵まれていて、幸せな事か実感した。 ・カメルーンのことももっと知りたい！自分たちにできることをやってみたい。 ・アフリカの料理ってどんなものがあるだろう。 ・アフリカに映像を送りたい。 ・スーパーフードのモリンガを育ててみたい。 ・世田谷と関係のある「大蔵大根」「馬込三寸人参」をモリンガと絡めたい。 ・東京のスーパーフード「明日葉」とモリンガを比較したい。	○キャリア教育と国際理解教育を含め、アフリカ・カメルーンについて知る。(特別活動1) ○今年度追究していく材(モリンガ)について思いを膨らませ、そこから派生していく活動や工夫について考える。(3) ○活動や工夫ごとにグループに分かれて、更に具現化をする。(2)	・担任から JICA の海外協力隊の体験を話す。 ・モリンガを中心にそれぞれの活動がつながっていくように精査・整理をしていく。 ・テーマを考えるにあたり、1年間の見通しをもてるようにやってみたいこと、挑戦したいこと、ワクワクすることなどを聞く。	[1:課題を見出し、把握している] <③課題対応能力> <④キャリアプランニング能力>  ○アフリカには想像力の膨らむ文化や歴史があり、材になりうるものがたくさんあること、世田谷とコラボすることでさらなる発展につながる可能性を秘めていることを知ることができる。 <②自己理解・自己管理能力>  ◎世田谷×アフリカについて目的をもって行うことから、課題を作り、解決に向けて自分にできることを考えている。
	「モリンガ、江戸東京野菜を育てる。箸皿ランチョンマット作りをし、食創りをする。」(15)			
	・うまく育てるためにコツが知りたい。自分たちで調べよう。農家さんにも聞いてみたい。 ・箸づくりと皿づくり。うまくできるように何度も練習したい！ ・アフリカとつなげるための工夫が必要だ ・ランチョンマットはアフリカ布のカンガ布を作ってみたい。 ・アフリカ布で様々な作品を創りたい。 ・JICA や大使館とももっとつながってみたい。 ・地域にアピールもしたい。 ・楽しい！夢中になれる！全部アフリカにしたい！ ・失敗のたびに何度もやり直せて工夫できる！	○モリンガ、大蔵大根、馬込三寸人参、明日葉を育てる。(2) ○箸と皿作りをする。(6) ○カンガ布(アフリカ布)を作り、そこからランチョンマットにする。(7)	・他教科との結び付きが可能かどうか、児童が考えられるよう、全教科の教科書を参考にするように声掛けをする。 ・プロの意見も参考にするように声掛けをする。 ・プロに話を聞く機会は、児童が課題をもった時や困り感のあるタイミングにする。	◎世田谷×アフリカの魅力発信を目指して必要な情報を、手段を選択して収集している。 [1:課題を見出し、把握している] [2:課題解決の方法を考えている] [3:協働して学んでいる] <①人間関係形成・社会形成能力>  ●自己の取組を振り返ることを通して、食創り・布作りをしようと探究活動にすすんで取り組もうとしている。 ◎世田谷×アフリカの魅力発信を目指して収集した情報を、取捨選択したり、複数の情報や考えを比較したり、関連付けたり焦点化したりしながら、解決に向けて考えている。 [4:学びを振り返り、次につなげている] <①人間関係形成・社会形成能力> <③課題対応能力> <②自己理解・自己管理能力> <④キャリアプランニング能力>
		<div>3組のテーマ:世田谷とアフリカをつなげ、地域活性化を図る</div> <div>・アフリカを代表するモリンガと江戸東京野菜の大蔵大根・馬込三寸人参・明日葉を育てる。</div> <div>・育てた野菜を使い、世田谷アフリカ料理を考える。</div> <div>・箸・皿・ランチョンマット(カンガ布)を全てアフリカとつなげ、食創りをする。</div> <div>・アフリカ布でランチョンマット等の作品を作る。</div> <div>・研究発表や学習発表会で大人向けにモリンガや江戸東京野菜、布の作品を売る。</div> <div>・利益をアフリカのために還元する。</div> <div>・地域などに自分たちの活動を広報する。</div>		

二 学 期	「食創りとアフリカ布を使った作品作りなど関連付けて広げる」「世田谷とアフリカを繋げていく活動をする」(22)			
	<ul style="list-style-type: none"><li>・野菜をよりよく育てたい！</li><li>・世田谷とつなげたアフリカ布作品を作りたい！</li><li>・よりよく作るためには何を工夫すればよいかおうちの人にも意見を聞きたい。</li><li>・作ったものを売って、お金にして、それをアフリカのために使いたい。</li><li>・作った野菜でどんな料理ができるだろう。</li><li>・おいしいのは当たり前。世田谷とアフリカがコラボしたオリジナル料理を作りたい。</li><li>・いろんな人に見てもらい、食べてもらいたいな！</li><li>・プロの方にも見てもらいたい！</li><li>・いろいろな方に活動をを知ってもらいたいな！</li></ul>	<div>夏休み世田谷×アフリカ料理作り(料理を考え、作ってみる)。布で何かの作品を作る。</div> <div>○1学期に引き続き、江戸東京野菜やモリンガを育てる。(4) ○アフリカ布を使った作品作りについて、アイデアを絞るなど探究する。(12) ○世田谷×アフリカ料理を考える。(3) ○アフリカ布の作品や野菜を売る。利益をどのように使うか考える。(1) ○世田谷×アフリカ料理を食す。(2)</div> <div>各教科での学習との結びつき 国語：思いや願いを伝え合う。算数：分量の計算理科：植物の生長 社会：日本の国土・日本の産業家庭科：食材の扱い・料理の基本道徳：随時 音楽：空間作り書写：招待状・案内状 外国語：日本・アフリカ文化の伝達図工：布づくりなど</div>	<ul style="list-style-type: none"><li>・今までの学習を生かせるように、学習の軌跡を残しておき、振り返りしやすいようにする。</li><li>・意見が反映されやすいように小グループでの活動を促す。</li><li>・衛生・安全管理を徹底して行う。児童もその意識を強くもつよう促す。</li><li>・他教科(専科等)とのカリキュラム・マネジメントを行う。</li><li>・ゲストティーチャーの話を聞く場を設ける。</li></ul>	<div>[1:課題を見出し、把握している] ◎食創り・布作品作りを、目的をもって行うことから課題を作り、解決に向けて自分にできることを考えている。 ◎世田谷×アフリカの魅力発信を目指して必要な情報を、手段を選択して収集している。 [2:課題解決の方法を考えている] ●課題解決に向けた自分の取組や状況を振り返り、世田谷×アフリカ発信のためにできることを積極的に考え、粘り強く取り組もうとしている。 [3:協働して学んでいる] &lt;③課題対応能力&gt;&lt;②自己理解・自己管理能力&gt; ○活動を通して調べたり考えたりしたことについて、相手意識や目的意識を明確にしながらまとめる方法が分かっている。 ○世田谷とアフリカを結び付け、地域活性化につなげることで、人々の思いが繋がっていることに気付いている。 ○他教科と結び付けての探究的な学びを重ねた成果に気付いている。 [4:学びを振り返り、次につなげている]</div>
三 学 期	「今までの活動を地域などに広報する」(10)			
	<ul style="list-style-type: none"><li>・学習発表会で学習の成果を伝えたい！</li><li>・モリンガやアフリカ布を広めたい！知ってもらいたい</li><li>・自分たちの成長を、関わった方に見てもらいたい！</li><li>・地域に知ってもらうためにどのような手段があるだろう。</li><li>・校内でも自分たちの活動を知ってもらおう。</li><li>・探究することが楽しかった！</li><li>・世田谷とアフリカをコラボする経験ができた！</li><li>・誰かに喜んでもらうことが自分の喜びになった！</li><li>・友達と協力して作れたことがよかった！</li></ul>	<div>○学習発表会等で今までの活動を紹介したり、保護者に対して、作品や野菜を売ったりする。(4)</div> <div>○今年度の活動をまとめ、地域に広報する。(4)</div> <div>○1年間の振り返りをする。(2)</div>	<ul style="list-style-type: none"><li>・成長が分かるように、振り返りをもとにまとめるようにする。</li><li>・自分たちで作り上げてきた達成感を味わえるようにする。</li><li>・今までの活動の写真をもとに、自分たちにしかできない魅力発信を考えるよう促す。</li><li>・広めたい、伝えたいという子どもの思いは、他教科とのつながりで、より効果的に発信できるようにする。今までの探究活動での成長を実感できるよう促す。</li><li>・今までの学習の軌跡について、児童が自分の成長を、実感をもって話すことができるようたくさん記録をとっておく。</li><li>・世田谷×アフリカを通して学んだことを6年生につなげるためにキャリア・パスポートを活用する。</li></ul>	<div>[1:課題を見出し、把握している] [2:課題解決の方法を考えている] ○活動を通して調べたり考えたりしたことについて、相手意識や目的意識を明確にしながらまとめる方法が分かっている。 ●世田谷×アフリカを発信するために、友達の考えを生かしながら、協働して課題解決に向けて取り組もうとしている。 [3:協働して学んでいる] ◎伝える相手や目的に応じて考えをまとめ、世田谷×アフリカの魅力を適切な方法で表現している。 ○世田谷とアフリカを結び付け、地域活性化につなげることで、人々の思いが繋がっていることに気付いている。 ○他教科と結び付けての探究的学びを重ねた成果に気付いている。 [4:学びを振り返り、次につなげている] &lt;④キャリアプランニング能力&gt;&lt;②自己理解・自己管理能力&gt;</div>
材（世田谷×アフリカ）のもつ価値		材（世田谷×アフリカ）に寄せる子どもたちの思いや願い		
<ul style="list-style-type: none"><li>・アフリカには、モリンガや綿、コーヒーなど日本人に知られざる材になるものが豊富にあり、子どもたちが世田谷とコラボして創造性に富んだものを作り出すことが無限に広がる可能性がある。</li><li>・世田谷区にも、多くの地場産業が存在し、それらを知り、触れることで、地域をさらに知って、愛郷心をもつことにもつながる。</li><li>・世田谷とアフリカをつなげる活動を多面的に繰り返し行い、課題を見付け、追究していくことが、自分たちで解決していこうとする力につながる。</li><li>・作品などを作り上げることで、自分たちで考えた達成感を得ることができ、自己肯定感につながる。</li><li>・地域を意識した発表をすることで、地域に目を向け、視野を広げることにつながり、帰属意識を強くもつことができるようになる。</li></ul>		<ul style="list-style-type: none"><li>★自分たちで探究しようと決めた材について、誇りをもち、世田谷とアフリカをつなげていきたいと考えている。</li><li>☆モリンガを軸として自分たちのイメージしたものを少しずつ形にしたいと考えている。</li><li>☆学校や地域・アフリカのみんなにも自分たちの活動を知ってほしいと願っている。</li><li>☆他の教科にもつなげていきたいと考えている。</li><li>☆一つの目標にクラス全員で向かうことの楽しさを感じたいと考えている。</li><li>☆様々な活動を自分たちの力で解決していこうとしている。</li></ul> <div>★…子どもたちの深層にあると予想される求め・思い・願い</div>		